

令和6年度 第4回 学校運営協議会 会議録（要点記録）

1. 開催日時 令和7年2月7日(金) 13時30分から15時15分まで
2. 開催場所 浜松市立浜北北部中学校 尽力ホール
3. 出席委員 山本忠雄 池谷真也 和田安彦 矢野陵子 鈴木貴子 加藤悦子 小西雅子
4. 欠席委員 室内恵理香（学校支援CD）
5. オブザーバー 細川恭由（中瀬協働センター）
6. 学校支援CD（委員外） 岡本奈緒（兼CSディレクター）
7. 学 校 中野有哉（校長） 松島歩（教頭） 石島正巳（CS担当教諭）
服部将剛（主幹教諭）
8. 傍聴者 なし
9. 会議録作成者 CSディレクター 岡本奈緒
10. 議長の選出

司会より議長を会長にお願いしたい旨を伝え、協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

11. 協議事項
 - (1) 学校関係者評価について
 - (2) 来年度の学校運営の基本方針について
 - (3) 令和6年度学校運営協議会の自己評価について
12. 会議記録

司会より、委員総数8名のうち7名の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 学校関係者評価について

主幹教諭より別途資料に基づき概要説明があり、委員からは以下の発言があった。

池谷委員：地域でこちらから挨拶をするとほとんどの子が返してくれるが、毎年先生方の評価が低いのが気になる。授業の取り組みについては、教員の評価が厳しくなるのは当然だろう。ASK活動は分かりやすく良い。子ども達の評価も高いので浸透しているのだろう。交通ルールについては、以前は朝晩先生方が指導に立ったが、これについては今は難しい問題だろう。

和田委員：自分も含めて大人の保護者が今の学校教育の流れに対し、理解が追いついていないと感じる。学校は昔と比べて大きく異なり、自分が受けた教育が今も行われていると思われがち。学校教育が変化していることを、保護者に対し、具体的にアピールし浸透させればもう少し意見が変わってくるだろう。勉強中心、部活中心とそれぞれの子がいるので意見がばらばらになることは理解できるが、方針や手段が変わってきていることは示すべき。先生と子どもの評価のギャップについては、先生は厳しく指導したいが子ども達はこの程度でよい、という表われなのか。基準が示されればこの差も縮まるだろう。

矢野委員：生徒と先生との認識のズレ、特に挨拶。中学生は気持ちよく挨拶することが一番難しい年代。仕事から高校に出入りするが、高校生になると皮剥けて大人の挨拶ができています。成長して大人になると、これまで教えられてきたことが今ならやれる、できるようになるのではないかと。先生たちの評価は厳しいがきっと大人の姿を見せたことが5年後の彼らを変えている。自分自身も子育てを通して、文科省の方針や社会が大きく変化していると感じる。保護者が思う学校や先生とはこういうものだ、と昔の金八先生が素敵な先生だとみんなが作り始めてしまうと今

の先生は苦しくなる。もちろん現代の子に金八先生は合わない。社会が求めるものも本当はもう少し形を変えなければならないが、追いつかず難しい。大人がもう少し学び知ろうとするセンサーをつけないと世の中が変わってきていることに気付かず、いつまでも自分の子供の頃の先生はこうだったという話をされては、なかなかそぐわなくなってしまうと感じる。

加藤委員：挨拶と交通ルールについて、子ども達はできていると思っても学校はできていない、それはどういふことができているのか、具体的な基準を示すとよいのではないか。例えば交通ルールでは、自転車は左側、一時停止や左右の確認はしているか、といった具体的な説明をすると気付くだろう。CS 委員になり、意識して子ども達に挨拶をしているが「ただいま」と返してくれる子もいて、その場に合った挨拶ができていると思う。ASK 活動は今後さらに定着してくるだろう。また、野外活動について、小学校と同じではなく範囲を広げて違う場所へ行くのはどうか。富士にある盲導犬の訓練施設に行った際、体験とキャンプに多くの中学生が来ているという話を聞いた。こういった体験・経験をさせてあげるのも良いのではないか。

鈴木委員：部活動の苦情が多く見られる。方針の食い違いだろう。学校側の方針を明らかにすることで苦情が減るのではないか。CS あいさつ運動を 2 回実施したが、今後も協力し子ども達の笑顔が増え自分たちも心が温かくなれたらと思う。交通ルールについて自転車や歩道マナーが悪いと聞いたが、下校時間をあまり見ないため何がどう悪いのか分からない。わが子も学校に行く時はヘルメットを被るが、遊びに行く時は被らず困っている。周りの子がしていないと格好悪いからだろう。下校時間の指導も CS でお手伝いできたらと思う。

小西委員：生徒がアンケートにしっかり向き合っているのか疑問。例えば授業で先生の話聞いているのかについて、先生の話聞いていれば学力はついてくるはず。評価自体、本当のところを答えているのか疑問。本当のところ分からないと解決策も出てこない。生徒の評価に対して何が起因でこうなっているのかを見てもらいたい。自分たちの行動に対して問題意識が言えると自分の行動に対する評価ラインも分かる。もう少し生徒に正直に回答してもらえようような指針があるといい。挨拶なら 1 回すればできた、ではなく常にすれ違う大人に対してできているか、などの回答の仕方を助言してもよいだろう。保護者もアンケートに正直に答えていないのではと感じる。生徒がアンケート結果を見た時にギャップにショックを受けるのではないかと心配だ。

山本会長：○意見は抽象的な表現に対し、●は具体的でかつ意見多数という印象。保護者の意見が記名式となると、それだけ思いの丈を述べているということ、学校側もしっかり対応策にに応じていただきたい。13～15 歳が毎日学校へ行く意義や意味、自分が果たすべき役割をどう頑張るべきか、自ずと考えればその答えはその人なりに出てくるのではないか。そのためにアンケートがある。教室で先生方とこのアンケート結果をもとに中学生としての役割等を考える拠り所になればアンケートを取った意味も生きてくるのではないだろうか。

矢野委員：アンケート結果について、子どもたちが振り返ることはあるのか。

校長：現時点では、評価として留めている。他校では生徒会に返す取り組みを始めている学校もある。今後視野に入れていきたい。

校長：挨拶についての評価のギャップは、一つは教員自身の自己評価でもある。もう少しこうして欲しい、させたいがさせ切れなかったという反省を含めてのことだと思う。挨拶は「おはよう」「さようなら」だけではない。コミュニケーションベースの挨拶もある。自分自身に厳しくしているところもあるだろう。

池谷委員：保護者意見は記名式ということだが、保護者に対しての返し方はどのようにしているのか。

校長：直後に三者面談がある。意見に対してしっかり答えを用意し、担任から説明して伝えている。

交通安全については、ほぼ毎月苦情が入る。その都度全体指導を入れ、内容によっては個別指導もする。そのイメージが先生方にあるのではないかと。多くの子は守っていると思う。

矢野委員：その苦情は固定された人なのか。

校長：大抵は名乗らない。心配して言ってくださっていると思い、丁寧に対応している。

山本会長：1年間の集大成を示していただき、委員としても勉強になった。次年度に繋げていただきたい。

（2）来年度の学校運営の基本方針について

校長より別紙資料に基づき学校運営基本方針について説明があり、委員からは以下の発言があった。

鈴木委員：ほくほくタイムや北中スタディ、ヒーリングタイムと楽しみなことがたくさんあるが、どの時間を削ってこの時間を捻出しているのか。

校長：ヒーリングタイムは、朝の始業前8:15までを静かに過ごす習慣づけを目的とするもの。その他については、6時間目後に週2回の清掃時間がある。その枠を使って2日間は北中スタディ、1日をほくほくタイムとする。これにより毎日終わりの時間が揃い、生活を安定させる仕組み。

矢野委員：3本柱のうちの1つ「健全な心身及び恵まれた環境に育つ生徒」というのは、学校だけでなく彼らが生活の基盤になる家庭も含めての恵まれた環境ということなのか。

校長：我々は家庭環境まで入り込むことはできない。学校という枠の中で人間関係を含むより良い学習環境を作っていきたいというもの。それが我々の目指す生徒像。

池谷委員：いよいよ2期制の導入ということだが、これは案の段階なのか。また、他校では定期テストが無い学校もあると聞くが、その点についてはどう捉えているか。

校長：案ではあるがほぼこの流れで進めている。定期テストについては、検討材料だがまずは本校に馴染むかどうか。授業の評価が定期テストに出るという一連の流れを大事にしたい。業者テストとなると問題の使い回しという課題やリスクもある。段階的にやっていこうと思っている。

山本会長：校長先生の説明の中で、より精度の高い評価を目指したいという言葉が印象的。学習面だけでなく、生活面についても精度高く評価していただけることを期待したい。

小西委員：子供が面接練習の際に、学校の特色として「ASK活動」を取り上げていた。子供たちの中でも合言葉のように出てきて、置き去りにはされていないと感じる。これからも尽力と並行して継続してってもらいたい。

出席委員全員が賛同し、来年度の学校運営基本方針は承認された。

（3）学校運営協議会の自己評価について

岡本より、項目ごとに取りまとめた資料について説明し、委員からは以下の発言があった。

和田委員：全体評価を見ると、今年度生徒会本部役員と交流し、子ども達の声や委員からの質問に対し直接回答を聞けたことは、この協議会がさらに次に繋がると感じる。授業参観では見るだけで回答はないがこういった回答があるものに委員が直接携わったことは良い機会であったと思う。

山本会長：1期3年を終えることになるが、何ができたのか、何かを残せたわけではないが、子供たちへの関心は大きく高まったことは確かである。

校長より、第1期でご退任される委員へ感謝をお伝えし、会を閉じた。